

29才で出家した釈迦^{シヤカ}は、精神や肉体をさいなむ苦行によって心の平安を得ようとしたが、苦痛ばかりで真実の道を極めることができなかつた。そこでクギョウ^{クギョウ}苦行を止め、菩提樹^{ボダイジュ}の木の下で瞑想に入った。やがて七週間(49日)目、明けの明星輝く時、ついに悟りを開いて仏陀^{ブツダ}(目覚めた人、覚者)となったのである。時に釈迦35才、今から約2500年程前の12月8日のことである。

以後、12月8日を仏教の記念日として成道会^{ジョウドウエ}を行っている。

生命あるものすべて生きんとする欲望を持ち、執着し、満たそうとしている。しかし、それは他の生命の犠牲によって成っている。そのことを常に思い、他の幸せを自己のこととして喜び、他の不幸を自己の悲しみと感ずる時、その心は仏の心に通ずる第一歩となる。自他の別なく、思いやりの心を養いたい。